

“Dr.ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”

No.40 (ヒューマンパフォーマンスツール ⑧) 参考

【トラブル事例】

ケーブル撤去に伴い、ケーブルの切断作業を実施していたところ、誤って切断対象ではないケーブル(〇〇ポンプ電源ケーブル)を切断し、中央制御室に「〇〇ポンプ電源断」警報が発生した。

本事象の原因は、作業責任者の指示(切断対象ケーブルの指定)が曖昧であったため、作業員が切断すべきケーブルを誤認したものである。

【ヒューマンパフォーマンスツールの活用】

ツール名: “フラギング”

➤ 何のため？

- よく似た機器の中から対象を明確にすることでエラーの発生防止を図るため
- 作業途中に注意がそれた場合でも作業再開時に再び正しい機器に注意を向ける助けとすることで、対象機器の誤認を防止するため

➤ いつ使う？

- 外観のよく似た機器が近接する場合
- 対象機器から目を離すような場面が予想される場合
- 作業中に注意がそれやすい状況がある場合
- リスクの高い機器の近くで作業をする場合

➤ どう使う？

- セルフチェックやピアチェックを併用し、フラグ立てする機器を特定した後、誤認防止のためフラギング器具(シール、リボン、タグ、電気テープ等)で作業対象を明確にする。
- フラギング器具は、計器等の表示器や運転機器等の、設備に悪影響を与えないものや設置箇所等、工夫して使用する。

➤ 注意すべきこと

- フラギングは色や大きさなどを工夫して、ひと目で対象がわかるものにする
- 付箋など、簡単に外れてしまうフラギング器具を使用しない
- フラギング器具は導電性材料を使用しない
- 作業が終了した後は、フラギング器具を撤去すること

フラギングで作業対象を明確にすることでトラブルを予防しましょう！

※ ヒューマンパフォーマンスツールは、起こりうるエラーを予測し、感知することで、エラーや事故を防止しやすくするためのものです。このポスターは、事例を参考に安全啓発資料として編集・作成しました。